

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	医療安全		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期	教室名	302 他
担 当 教 員	藤丘 政明 野中 祥平	実務経験と その関連資格	藤丘:急性期病院で理学療法士として勤務 野中:回復期病院で理学療法士として勤務			
《授業科目における学習内容》						
理学療法場面で起こりえる医療事故やリスク管理を学び、想定できる能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)を以て評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
実践, リスク管理読本 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
教科書や配布資料を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に留意する。						
授業の 方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	本科目の概要について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内 容の箇所を読んでおく。	
		各コマに おける 授業予定	リスクとは何か			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	医療事故、医療過誤、アクシデント、インシデントについて説明 できる	教科書	教科書を用いて講義内 容の箇所を読んでおく。	
		各コマに おける 授業予定	リスク管理の用語と基準			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	代表的なリスク管理基準、訴訟対策について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内 容の箇所を読んでおく。	
		各コマに おける 授業予定	リスク管理の用語と基準			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	気をつけなければならない患者の訴え、背景疾患を説明できる	教科書	教科書を用いて講義内 容の箇所を読んでおく。	
		各コマに おける 授業予定	リスク管理のためのメディカルチェックリスト			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	気になる検査値の読み方、考え方を説明できる	教科書	教科書を用いて講義内 容の箇所を読んでおく。	
		各コマに おける 授業予定	リスク管理のためのメディカルチェックリスト			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	リスクになり得る高齢者の特徴的症状について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	リスクになり得る高齢者の特徴的症状		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	廃用症候群のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	廃用症候群のリスク管理		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳卒中の病態と治療方針について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	中枢神経疾患のリスク管理		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳卒中(急性期)のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	中枢神経疾患のリスク管理		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳卒中(回復期)のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	中枢神経疾患のリスク管理		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	中枢神経疾患のリスク管理		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人工股関節置換術(THA)のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動器疾患のリスク管理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	人工膝関節置換術(TKA)のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動器疾患のリスク管理		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨近位部骨折のリスク管理について説明できる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動器疾患のリスク管理		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの補足や復習により理解を深めることができる	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	まとめ		